

# 三、戦後の復興

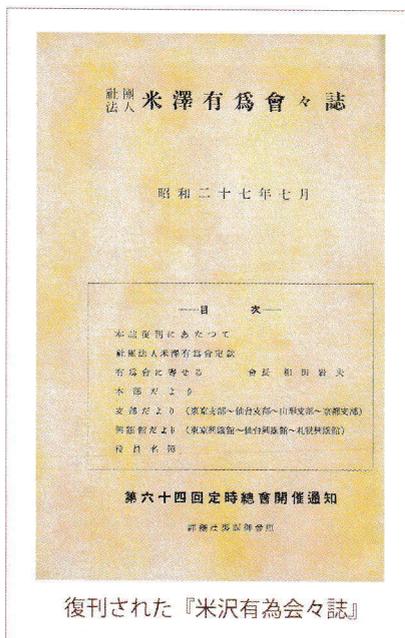
昭和 20 (1945) 年、太平洋戦争末期になると国内各地への空襲が激化し、4月13日に東京興譲館寮、7月10日には仙台興譲館寮がそれぞれ被災全焼します。同時に、明治創立以来の有為会関係書類も灰燼に帰しました。札幌興譲館寮は、幸いにも被災を免れました。

## 学生寮興譲館の戦後再建

戦後第1回の定時総会は、昭和23(1948)年8月11日に米沢市内で開催されました。戦後社会の大混乱の中で、有為会の先達は、東京および仙台の興譲館寮の復興に取り組み、まず仙台興譲館寮、つづいて東京興譲館寮がそれぞれ再建され、寮の被災で会員宅などに分散生活していた寮生が興譲館寮に戻ることができました。

## 奨学金制度の復活

一方、奨学金制度は、戦時末期から中断されていましたが、会員や遺族からの寄附を資金に、昭和28(1953)年に戦後貸費生第1号が誕生しました。その後、多くの会員から奨学基金が寄せられ、それらを基礎にして、現在も有為会奨学金制度の運用が続けられています。



復刊された『米沢有為会々誌』

## 支部活動の再開と会誌復刊

以上の戦後の復興の原動力は、各地の支部活動でした。東京支部伝統の園遊会も、昭和25(1950)年に戦後第1回が開催されました。また、昭和27年には戦前の『米沢有為会雑誌』から『社団法人米沢有為会々誌』と誌名を改めて、年刊で復刊されています。